

県外千葉氏

美濃東氏

美濃東氏の祖は、千葉介常胤の六男、東胤頼の孫胤行
 です。東氏は、「承久の乱」の手柄で美濃国郡上郡山田庄
 (岐阜県郡上市)の領地を得ました。そして、その子の
 行氏の代に山田庄に移住したとされます。行氏の没後、
 家督はその子孫の常縁に継承されました。常縁は、
 1455年(康正元年)、千葉介胤直が一族の馬加康胤と家
 臣の原胤房に滅亡させられると下総国に下向し、康胤と
 胤房を攻撃しました。

戦国時代以後の東氏は衰退し、一族の遠藤盛数が1561
 年(永禄4年)、常縁の孫常慶を滅ぼすと遠藤氏は織田氏、
 豊臣氏などに仕え、関が原合戦の後、徳川氏に従って
 郡上八幡藩主となりました。後、近江国三上(滋賀県
 野洲市)に移され、ここで明治維新を迎えました。



篠脇城跡 岐阜県郡上市
 美濃東氏の本拠地。

